

農 ポイント

稲作 ポイント

適切な水管理と中干し、防除を行って 収量向上を目指しましょう！



秋田地区営農センター 伊藤 広大

茎数確保の水管理

6月の水管理では、茎数を早期に確保することが重要です。分けつは、昼夜の温度較差が大きい場合に促進されます。そのため、日中は浅水管理(2~3cm程度)にすることで水温・地温を高め、かん水は水温が低い早朝に、できるだけ短時間に行うようにします。きめ細やかな水管理が、安定収量へと繋がります。

中干しの実施

6月下旬までに下記の日目標茎数を確保したら中干しに入りましょう。

品種名	70株植え	60株植え
あきたこまち	21本/株	24本/株
めんこいな、ぎんさん	23本/株	26本/株

中干しの効果

- ①無効分けつの抑制
- ②根の健全化
- ③過繁茂、倒伏防止
- ④田面を固くする

中干しの実施期間は7~10日、圃場に軽く亀裂が1~2cm入り、足跡がつく程度とします(過度な中干しは根を傷め、稲体の衰弱に繋がります)。幼穂形成期(7月15日頃)前には終了するようにしましょう。中干しの終了後は、すぐに湛水に戻さず、間断かん水に努めてください。

病害虫防除

①いもち病

箱処理剤や移植時に側条施用しなかった場合は、「オリゼメート粒剤」(2kg/10a)を6月12~18日の間に散布し、病斑が確認された場合は「ブラシン剤」や「ビーム剤」を散布しましょう。

②残草対策(斑点米カメムシ)

斑点米被害の原因となるアカスジカスミカメは、ノビエやホタルイなどの穂に産卵するため、これらの雑草の防除が斑点米の被害防止に繋がります。ノビエやホタルイなどの取りこぼしが多い圃場では、中・後期除草剤の散布を検討してください。残草の状況をよく観察し、除草剤の散布適期を見逃さないようにします。

●主な中・後期除草剤

初期・一発剤で対応しきれなかった雑草については以下の薬剤を散布しましょう。

薬剤名	使用量	対応雑草	使用時期	使用方法
レプラス粒剤	1kg/10a	ノビエ、ホタルイ、オモダカ他	移植後14日~ノビエ4葉期(収穫60日前まで)	湛水散布(水深3~5cm)
クリンチャー粒剤	1kg/10a	ノビエ	移植後7日~ノビエ4葉期(収穫30日前まで)	
	1.5kg/10a		移植後25日~ノビエ5葉期(収穫30日前まで)	
クリンチャーEW	100mℓ/10a		移植後20日~ノビエ6葉期(収穫30日前まで)	湛水・落水散布(水深3~5cm)
バサグラン粒剤	3~4kg/10a	ホタルイ、オモダカ、シズイ、クログワイ他	移植後15~55日(収穫60日前まで)	落水散布またはごく浅く湛水して散布
バサグラン液剤	500~700mℓ/10a		移植後15~55日(収穫50日前まで)	
クリンチャーバスME液剤	1,000mℓ/10a	ノビエ、ホタルイ、オモダカ他	移植後15日~ノビエ5葉期(収穫50日前まで)	湛水散布(水深3~5cm)
ウィードコア粒剤	1kg/10a	イボクサ、ノビエ、オモダカ他	移植後7日~ノビエ4葉期(収穫60日前まで)	
ロイヤント乳剤	200mℓ/10a	イボクサ、ノビエ、コナギ、オモダカ他	移植後20日~ノビエ5葉期(収穫60日前まで)	

生産資材・農産物の盗難などに注意！

肥料・農薬や収穫した農産物などの盗難・悪用・流失を防ぐため、施錠できる屋内で適切に保管しましょう